

伊藤 ふみや

2026.05
VOL.03



並木幼稚園と周辺施設の
現状説明会を開催しました

市議会議員として3回目の活動報告をお届けします。

今回は、4月4日に開催した「並木幼稚園＆周辺施設の現状説明会」について書きたいと思います。当日は雨にもかかわらず100名以上の方にお越しいただきました。並木地区の方だけでなく他の地域からも、また幼稚園の卒園生の方なども来てくださり、この場所への思いがいかに深いかを改めて感じました。

午前中は一緒に清掃をし、午後は「並木がどんな街になったら嬉しいか」をテーマに皆さんからご意見をいただきました。「勉強できる自習スペースや図書館が欲しい」「雨の日や夏場に子どもが遊べる屋内の場所が欲しい」「いろんな世代が気軽に集まれるカフェのような場所が欲しい」など、素敵な具体的な声がたくさん集まりました。筑波技術大学の学生さんが跡地活用を卒業設計のテーマとして取り組んでくださることも決まり、住民の皆さんの意見をもとにした建築提案が生まれることをとても楽しみにしています。

今年度は解体設計の予算もつき、ようやく具体的に動き出しています。交流センターや児童館の将来とも絡めながら、有志の皆さんとともに、この場所の良い活用に向けて引き続き取り組んでいきます。気になることや気づいたことがあれば、ぜひ声をお聞かせください。

一般質問で児童発達支援センターについて 質問・提案しました



一般質問の映像が
ご覧いただけます



今回の3月議会では、令和9年度に開設予定の児童発達支援センターについて質問・提案しました。

準備にあたり、市内4カ所の福祉支援センターと民間の児童発達支援センターを視察し、保育協会や障害児の親の会の方々からも現場の声を伺いました。保育の現場では「グレーゾーン」の子どもが各クラスに3～4名程度おり、専門的な助言の少なさや小学校への引き継ぎの課題など、様々な困難があることがわかりました。早期からの専門的な関わりの重要性を改めて感じました。

提案1 地域全体の支援の質を高めるハブ機能

民間の児童発達支援事業所は5年間で29箇所から74箇所へと約2.5倍に増加しています。事業所の数が増える中、支援の質を担保するためのスーパーバイズ機能が重要です。筑波大学との連携などを活かしながら、センター自身が専門性を高め続け、地域全体の支援水準を引き上げていく中核としての役割を提案しました。市長からは「エビデンスに基づいた支援体系を構築し、ナレッジのハブとして他自治体のヒントになるものに成長させていくことがつくば市の使命」との力強い答弁をいただきました。

提案2 幅広い家庭に届く柔軟な利用形態と早期からの入り口機能

現在の福祉支援センターでは親子通所での集団療育が中心ですが、平日参加が難しい共働き世帯や、親子で参加することにハードルを感じる家庭など、現状の形では繋がりにくい方々があります。毎日通う場所というよりも、保育園や学校に繋がる前のサポートと、繋がった後のフォローを幅広く担う「入り口ハブ」としての機能を求め、柔軟な利用形態の検討を要望しました。また、同じ建物に入る教育相談センターとの連携による就学前から学齢期への切れ目のない支援、将来的な放課後等デイサービスの併設についても要望しました。

令和5年の提言から約8年、多くの関係者が待ち望んできた取り組みです。つくば市ならではの良さのある事業となるよう、引き続き関わってまいります。

議会活動 委員会

福祉保健委員会の副委員長と最終処分場に関する調査特別委員会の委員長を務めています

常任委員会

福祉保健委員会



副委員長として、つくば市福祉支援センターのあり方に関する検討会の委員を務めています。

市内4カ所の福祉支援センターを視察し、実際の利用状況や施設の現状を現場で確認しました。

令和9年度に児童発達支援センターが開設されると、現在3カ所のセンターで行っている児童発達支援事業が新センターに集約されます。施設の老朽化も進んでおり、長寿命化工事のタイミングも迫ってきています。こうした変化の節目だからこそ、4つの福祉支援センターが今後どのような役割を担っていくのか、今の時代に市が本当に取り組むべき事業は何なのかを、利用者・家族・職員それぞれの声を聞きながら、しっかりと考えていきたいと思っています。

特別委員会

最終処分場に関する調査特別委員会



委員長として、市内のごみ処理施設「つくばサステナスクエア」を視察しました。

最終処分場に運ばれる前の流れをしっかりと理解することも大切だと感じており、大変参考になりました。

現在、リサイクルによる資源売却収入は年間約1億9,000万円にのぼります。しかし本来資源化できるものが燃えるごみとして出されている割合はかなり多く、処理コストがかさむだけでなく、焼却施設の老朽化を早めることにもつながっています。分別をしっかりとすることが、いかに大切かを改めて実感しました。

地域活動にも取り組んでいます

障害のある方の余暇支援を考える会

障害のある方たちの余暇をもっとしっかりと考えていくための会を、4月26日に立ち上げました。働く場所や住む場所の整備は少しずつ進んできましたが、余暇の充実はまだまだこれからだと感じています。この会の活動を通じて、障害のある方たちが豊かな時間を過ごせる環境づくりをみんなで進めていきます。

並木祭り・PTAへの参加

昨年に引き続き、並木祭りの実行委員として今年も関わらせていただきます。今年のお祭りに向けての準備もすでに動き出しています。また、今年度から並木小学校PTAの共同代表とコミュニティスクールの委員も担当させていただくことになりました。地域の中でできることをしっかりと果たしていきたいと思っています。

いただいたご要望、少しずつ前に進んでいます

公園・道路・歩道・交通安全のことなど、地域の皆さんからたくさんのご要望をいただいています。すぐに解決できないものもありますが、ひとつひとつ市へお伝えし、確認や対応を進めていただいているところです。例えば、桜南スポーツ公園では、枯れ枝の剪定・ベンチの修繕・周辺道路の修繕の準備が進んでいます。かつらぎ公園のテニスコートについても、専門業者による現地調査を実施していただき、応急処置と全体の更新についての検討が始まりました。

LINE公式アカウントで活動を発信中！

週に1回、音声で活動報告を配信しています。福祉・農業・不登校・ひきこもり支援・地域のことなど、日々関わる現場で感じていること・考えていることをそのままお話ししています。誰もが居場所と出番のあるまちへ——そのために必要なことを、多くの方に知っていただくとともに、皆さんの声もぜひ聞かせてください。皆さんの意見が、活動をより良くしていく力になります。気になること、困っていることがあれば、このLINEからお気軽にご連絡ください。ぜひご登録ください。

登録は
こちら！



伊藤 ふみや PROFILE

1988年5月31日生まれ。筑波大学理工学群化学類に進学。議員インターンシップを通じて、現つくば市長五十嵐立青のもとで活動し、農業と福祉の問題に取り組む。大学卒業後、五十嵐とともにNPO法人つくばアグリチャレンジ（現NPO法人ユアフィールドつくば）を設立し、ごきげんファームをスタート。現在は4カ所のごきげんファームに加えて、障害のある人たちのグループホームを展開。世界の傑出した10人の若者として国際青年会議所のTOYP（Ten Outstanding Young Persons）を受賞。社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、保育士、中小企業診断士の資格を持つ。スクールソーシャルワーカーとして活動経験があり、現在は保護司として活動している。つくば市並木在住。2024年つくば市議会議員選挙で初当選。



SNSでも
情報発信中！



note

